

## 和太鼓の音心に響く

石川一成さん（67歳）

### 和太鼓との出会い

石川さんが和太鼓と出会ったのは大学時代。「水口囃子」という曲を聴いて、心が躍りました。太鼓って、こんなことができるのかと感動しました」と石川さんは熱弁しました。

音と動きで楽しませる和太鼓との出会いは、石川さんにとって大きな衝撃でした。

大学を卒業して小学校の教師になった石川さんは、和太鼓奏者の師匠の下で練習するようになり、ここで学んだ太鼓の演技が、華鼓のルーツになっています。

### 華やかに舞い力強く打つ

華やかな太鼓を打ちたいという思いから「太鼓サークル華鼓」を立ち上げたのは昭和63年のこと。

華鼓では、小学2年生から70歳代まで20人のメンバーが、町の納涼まつりや文化産業まつり、こどもエコーばんばくなどのイベントや高齢者福祉施設などで演技を披露しています。「和太鼓の音の厚みや広がり、痺れるような響きを全身で感じられますよ。」



一糸乱れぬ動きでバチ（太鼓を打つ棒）を天高く突き上げる姿や、法被を靡かせて跳び上がる様子は壮観です」と石川さんは魅力を語ってくれました。

### 楽しさを分かち合いたい

石川さんは、子ども会にも各地区盆踊りや納涼まつりで踊る曲を指導しています。

「30年くらい前、初めて納涼まつりで東郷音頭の演奏をしたときは、3人程度しかいませんでした。今では、200人も子どもたちが参加してくれています」と話す石川さんは、心から嬉しそうでした。

石川さんには、華鼓と子ども会に対する共通の思いがあります。

「和太鼓の楽しさを分かち合いたい。一緒に叩くことで生まれる一体感を皆さんに味わってほしい」と話す石川さんの言葉に、和太鼓への深い愛を感じました。

石川さんは、これからも情熱を持って和太鼓や教え子たちと向き合っていきます。情熱は人と音に宿り、皆さんの胸に強く響くようにしたい。



納涼まつりでの演技の披露

## No. 425 育てています!

ゆづなちゃん、もうすぐ1歳だね。

甘えん坊でママやパパを困らせちゃうこともあるけれど、明るく元気な笑顔でいつも周りを幸せにしてくれてありがとう。

これから、いろいろな経験をして家族みんなと一緒に成長して、たくさん笑って大きくなろうね。



ゆづな 結月奈ちゃん (11カ月)

森田 佳吾さん・有希さんの長女 (傍示本)